

カルメル

霊性センターニュース



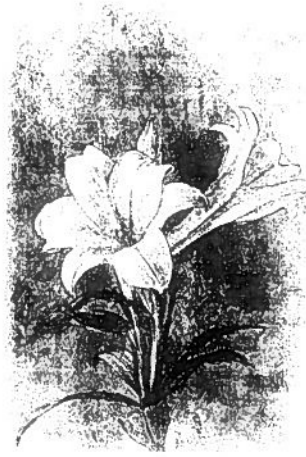
2015年9月

312号

## 目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
東京	20
京都	24
名古屋	28
北陸	30
諸所の企画案内	33
年間購読(郵送)のご案内	44
編集後記	45

# 心の泉





## 第二巻

### 第十一章 イエスの十字架を愛する人は少ない

#### 2 無償の愛

しかし、イエスから受ける慰めのためではなく、イエスをイエスとして愛している人は、患難や苦しみの時にも、慰めの時と同様に主を賛美する。そしてイエスが、いつまでも慰めを与えなくても、彼らはいつも感謝と賛美を怠らない。

イエスへの愛が、自分だけの利益や自愛心の混じらない純粹なものであれば、それはどれほどの威力をもっていることであろう。いつも慰めだけを求める人は皆、雇われ人ではなかろうか？ 自分の安楽と利益だけしか考えないのは、キリストよりも、自分自身を愛している証拠ではなかろうか？ 何の報いも求めずに神に奉仕しようとする人は、どこにいるのであろう？

#### 3 自分からの離脱

すべてのものから脱した霊的な人はきわめて少ない。真に心の貧しい人、どんな被造物からも心を解き放った人を、どこに見つけられよう？ もしそういう人がいれば、「はるかな国から来る珍しい宝物のように値打ちがある」(箴言31・10)。貧しい人に、自分の財産をことごとく与えても、大したことはない。非常に厳しい修行を続けても、まだささいなことである。あらゆる学問を修めても、まだ目的から遠い。偉大な徳と熱心な信仰を持っていても、何よりも必要な一つのことをまだ足りない。それは何か？ すべてを離れ、自分を捨て、自分を全く脱し、人間的なあらゆる自愛心を捨てることである。できるだけのことをして、いや自分は何もしなかったと考えなければならぬ。

## 聖テレジア生誕 500 年を祝って

日々神と親しく生きる - 9月 -

神の慈しみは

神に希望をおく人に

決して欠けることはありません

～聖テレサ～



神の慈しみへの

果てしない望みは

わたしの宝です

～聖テレーズ～

わたしたちは「天の父が完全であるように完全になりなさい」と聖なるものとなるよう呼ばれています。テレサもテレーズもその呼びかけに応えようとそれぞれの時代、環境の中で信仰の道を歩みました。アビラのテレサのカリスマは四世紀の時を経て教会の新しい時代を築いたリジューのテレーズの内に引き継がれ、テレーズの「小さいものの群れ」は21世紀のわたしたちへとさらに広がろうとしています。

今月30日はテレーズの命日（亡くなった記念日というより「真のいのち」に入った日）を祝います。アビラのテレサ生誕500年祭にあたり、わたしたちもあらためて愛の山頂からの「生きる水」に常に渴き、神の慈しみに潤されて日々一人ひとり信仰の道を生きぬき、神の呼びかけに応えたいものです。

伊従 信子（いより のぶこ）

ノートルダム・ド・ヴィ

## 人を赦す (22)

くのり  
九里 彰

ポルポトの犠牲者であったクレール・リは、赦しを御父にゆだねることによって、彼らを赦しているとも言える。「私には彼らを赦せないが、赦します」と。彼女自身、「クメール・ルージュを赦すことは、大変苦勞しました」（「人を赦す18」）と言い、また「赦しは神の恵みであり、私自身の力を越えた恵みです」（「人を赦す19」）とも言っている。

とはいえ、残虐なホロコーストを引き起こすものは、何なのであろうか。この出来事は、20世紀のカンボジアにだけ起きた特殊なことなのであろうか。クメール・リは被害者であるが、加害者となる可能性はないのであろうか。これに対して、キリスト教は然りと言う。だれもが加害者になり得ると。つまり、ポルポトの悲劇もアウシュヴィッツの悲劇も他人事ではないのである。太平洋戦争において、日本軍がアジア各地で起こした残虐行為は、これからも起こり得る。コンボやウガンダでの大量殺戮は、そのことを立証している。一般市民を巻き込む残虐な原爆投下の是非が問われているが、核を保有する限り、原爆使用はいつか起こり得るのである。

なぜか。それは、私たちの心の中に自分を神のようになろうとする根本的な傾き、傲慢が存在するからである。弟カインに嫉妬し、殺してしまう兄アベルは、その象徴である。また神から遠く離れ、勝手放題をしたいという放蕩息子の望みも、だれの心にも存在する。

パウロは、私たちの心の中に巣食う根本的な罪に触れている。

わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。わたしは自分の望む善を行わず、望まない悪を行なっている。もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、私の中に住んでいる罪なのです。それで、善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまとっているという法則に気づきます。…わたしは何と惨めな人間でしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか。（ロマ7・18-21, 24）



## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (94)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 最高のほほえみ

十字架のヨハネ修士のこの世の苦労や苦しみを見た後で、また十字架を、もっと十字架をといる彼の望みを見聞きした後で、彼は実際、本当はどのような人物であったのか、直接問うことと、それに対する答えが、残っています。

問いは、次のようなものです。このような人が、明るく穏やかに、喜びの問題を扱っていたのか。彼は、憂鬱な、灰色の、楽しみに水を差す人ではないのか。

私たちは、彼を近くから知っていた人々や、彼と一緒に生活していた人々の声に耳を傾けるべきでしょう。彼らの一人は、「(彼が) 穏やかで、快活で、目下の者が落ち込んでいるのを見るのが嫌いな人」であったとしています。そしてはっきりと、「一度も彼が、落ち込んでいたり、自分自身や目下のことでしかめっ面をしているのを見たことはありません」と述べています。

注意すべき事実は、これでしょう。彼は落ち込む人でも、自分のそばに落ち込んだ人がいるのに我慢できなかったということです。もっと言えば、落ち込む人の明確な敵であったということです。

彼を知っていた人々の他の一人は、「彼は不作法に笑うのではなく、喜びを引き起こすような穏やかさをもって笑いました」と述べています。すなわち、そのほほえみは、喜びを伝えていたのです。

他の人は、こう説明しています。「修道者のだれかが悲しそうに悲嘆に哭いているのを見ると、(聖人は) 彼を呼び、彼と共に、ある時は果樹園へ、ある時は野原へと出てゆきました。悲しみがどんなに大きかったとしても、彼はとても喜びと慰めに満たされてもどってきました」。

修道者教育に関する彼の一種の原則は、長上は「目下の者が悲しみの状態から脱け出せるように努めなければならない」というものです。

それゆえ、悲しみや落ち込みを、家や修道院や周囲から、特に降誕節や復活節や聖霊降臨の日々に、追い払う努力がなされねばなりませんでした。



「『エッフアタ』と言われた。これは、『開け』と言う意味である」(マルコ 7, 34)。

福音書は、ご存知のように、ギリシャ語で書かれています。イエスの時代に一般人によって話されていたのはアラマイ語です。その発音「エッフアタ」、「開け」は、イエスのお口から出たままの力強さ、衝撃と新鮮さをわたしたちの耳にまでも響かせています。今日の福音は、「耳が聞こえず舌の回らない人」の癒しの奇跡なのですが、その奇跡を実行なさるイエスの取られたその方法に注目すべきでしょう。と言っても、「指をその両耳に差し入れ、唾をつけてその舌に触れられた」にではなく、「天を仰いで深く息をつき、その人に向かって、『エッフアタ』と言われた」にです。このお言葉の力強さにひってきけるのは、創世記の冒頭の「神は言われた。『光あれ』」(創世記 1, 3) だけではないかと思えます。それは、神の愛から出た御言葉による天地の始まりであり、今日のイエスのお言葉は、新しい人間の創造の始まりです。

イエスがなされた癒しに居合わせた人々も、「すっかり驚いて言った。『この方のなされたことはすべて、すばらしい』」。創世記では、人間の創造をされた後、「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった」(創世記 1, 31)。福音の主題も、癒しと言うよりは、新しい人の創造、十字架の死と復活に頂点を持つものなのです。今日、御言葉を聴くわたしたちの中にも、この癒し、創造の力が働いています。以下は、ある本の一部の翻訳です。「主イエス、あなたは、あの不幸な耳が聞こえず舌の回らない人を前にして、ため息をつき、同情と共感を示されました。そして、あなたの同情と共感、癒しの奇跡となったのです。あなたの赦しを乞い求めます。わたしの心の頑なさが、しばしば、多くの兄弟たちを前にして、共に感じ、共に分かち合い、共に感動することを妨げているのです。今日、わたしのために、あなたの『エッフエタ』を繰り返してください、隣人への配慮に基づく美しい言葉を見つけ語ることができるよう。主よ、あなたの愛の不思議な業を前にして、あまりにも鈍感で麻痺したわたしを赦してください。あなたの賛美を歌い、あなたが継続し続けておられる不思議な業すべての語る驚きと喜びの賜物を、わたしに与えてください。あなたは、洗礼の日に、わたしの耳を開き、もつれた舌を解いてくださいました。お願いします、それを続けてください」。わたしたちのうちにも、古い人の傷を癒し、新しい人を創造して下さるイエスの働きが始まっています。

ルカ 渡辺幹夫



## 年間第24主日 (B) みことばのひびき (マルコ8:27~35)

年間24主日の福音は、イエスが受難と死のことを弟子たちに最初に予告したことを表わしています。イエスの弟子になりたいと思っている人たちのため、ペトロは十字架の重大性のイエスの教えを排除しようとし、ペトロはイエスが十字架と苦しみについて言い出したことを理解しません。ペトロはイエスをメシアとして受入れています、苦しむメシアとしては受入れていませんでした。ペトロはメシアを栄光の王としてのみ語る当時の政府の宣伝に染まっていた。今日、私たちは皆イエスを信じています。しかし、私たちは皆が同じようなやり方でイエスを信じているわけではありません。私にとってイエスは誰でしょうか？ 今日、人々が持っているイエスに対する最も普通のイメージはどれでしょうか？ 今日、イエスを見る私たちのやり方を妨げようとする宣伝はあるのでしょうか？ イエスにとって私は誰でしょうか？

イエスは「人々は、私のことを何者だと言っているのか？」と尋ねます。「洗礼者ヨハネだ」とか「エリヤだ」とか「預言者の一人だ」とか、人々は様々な答えをします。他の人たちの意見を聞いてから、イエスは尋ねます。「それではあなたがたは私を何者だというのか？」ペトロは「あなたはメシア、キリストです。そうです、主は人々が待ち望んでいる方です」と答えます。イエスはペトロに同意されますが、このことを他の人たちには話さないように言います。何故イエスはそうされたのでしょうか？ その当時、全ての人々がメシアの到来を待っていましたが、階級や社会的地位によって、ある人は王として、またある人たちは司祭、博士、戦士、法律家、預言者などとして自分なりの方法で待っていました。しかし、誰もメシアをイザヤによって告げられているようなしもべとしてのメシアを待ってはいませんでした (イザヤ42:1~9)。

イエスは、自分はイザヤが告げている「しもべメシア」であること、そして捕えられ、正義の使命を行なっている間に殺されることを教え始めます (イザヤ49:4~9, 53:1~12)。ペトロは恐ろしくなりイエスを脇に連れて行き、諷めようとしていました。イエスはペトロに答えます、「サタンよ、引き下がれ！あなたは神が考えるように考えず、人間が考えるように考えている」。イエスの答えは大変厳しいものでした。イエスはペトロをサタンと呼びます。ヘブライ語ではサタンは告発人を意味し、神の道から人を抜きとる者です。イエスはご自分の使命から引き離す者は誰も許しません。イエスは文字通り「後に下がれ」と言います。すなわち、ペトロはイエスの後を歩き、イエスに従い、イエスが示した方法、方向を受け入れなければなりません。ペトロは、第一人者となり、方向を示したかったのです。ペトロは自分の基準にあったメシア、自分の希望に従ったメシアを望みました。

イエスは今日でも当てはまる結論を引き出します：「私に従いたい者は、自分の十字架を背負って私に従いなさい。」当時、十字架はローマ帝国が周辺諸国に課した死刑の宣告でした。十字架を背負ってイエスに従うこととは、当時、合法化されている不正を受け入れることを意味します。それは、徹底的で、全体的な破断を示しています。十字架は宿命でも、御父からの切迫した事情でもありません。十字架は「よい知らせ」を表わすためにイエスから自由に引き受ける委託の結果です。イエスは迫害を受け、自分の命を明け渡すことを恐れました。「兄弟のために自分の命を与えるほど大きな愛の証明はありません。」

(Sr. Paulina)

「弟子たちはこの言葉が分からなかったが、怖くて尋ねられなかった」(マルコ 9, 31)。

太平洋戦争中、わたしがまだ満五歳にもならない幼児の時、大人たちが味わっているビールを自分も飲みたいと駄々を捏ねたと、母から聞かされています。母は苦勞してビールを一本手に入れてくれた、そうです。そして、ビールをコップに注いでわたしに飲ませ始めたところ、「苦い」と叫んで、コップを持つ母の手を払いのけて、泣きだしてしまった、そうです。確かに、子供にはビールは苦いとしか、感知できないのです。ビールの苦さを美味しく感じるようになるまでには、長い時間の経過が必要なのでしょう。あの幼児の舌には苦いものでしかない液体を、美味しくと感じ取らせてくれるのは、なんなのでしょう。

「人の子は、人々の手に引き渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する」。確かに、わたしたちは、イエスの身に降りかかるこれらの出来事は、わたしたちの罪からの救い、贖いの実現の核心である、つまり、わたしたちの喜び、幸いの源泉であるとよく知っており、わたしたちを罪の捕らわれから解放して、自己実現に、真実な自由に導くもの「福音」とわかっています。しかし、それは、この言葉が、イエスの上にだけ実現する場合に限定されるのではないのでしょうか。わたしたち自身が、その中に巻き込まれて行くときには、もう、この救い、喜び、自己実現の展望は消えてしまい、後に残るものは、その中ではどう生きたらよいかも理解できない暗闇、それまでの経験、体験の中で学び取ったことが何の役にも立たない足場のない理解できない虚無だけなのではないのでしょうか。イエスが「人の子は、人々の手に引き渡され、殺される」と口で言われただけ、そのときにも、聞いていた弟子たちは、この言葉の理解できず、尋ねることをできないほどの恐れに捕らわれていたのです。それなら、この言葉がイエスの上に実現化されて行く現場に立ち会うことになった時には、彼らはイエス一人を残して、すべて逃亡する結果になってしまったのです。

しかし、この弟子たちを咎めることも、軽蔑することもできません。実に、彼らの姿は、わたしたちの姿なのであり、彼らの取った行動は、わたしたち自身の行動の投影なのです。このような、人間なら誰も自分からは脱出できない捕らわれから、解放できるのはイエスのみなのです。ルカ 渡辺幹夫

## 年 間 第 二 十 六 主 日 (マルコ 9 : 38-43,45,47-48)

今日の福音は、イエスが弟子たちに与えられた長い教訓の一部をもう一度わたしたちの心に留め直すためのものです。

福音はイエスの弟子でありたいと望む全ての人に向けられたイエスの三つの重要な要求を提供します。まず、自分だけがイエスのものであるという閉ざされた考え方をしないこと。心を開いて周りの人のことを考え彼らの良さを認めることです。二番目に他の人より自分が優れていると考えないこと。小さな人々、貧しい人、仲間たちから歓迎されない人たちを大切にすること。この教えに従わない人は大きな石臼を首に懸けられて海の深みに投げ込まれる方がよいとイエスは言われます。三番目にわたしたちの日常生活の一瞬、一瞬を福音の教えに合ったものとする。皆が明るく平和に、真の幸せを喜び合える社会を実現していくためです。

これらの三つは、今を生きる私たちにとって非常に現実的な意味あるイエスの要求です。わたしたちキリスト者はキリスト教以外の宗教の人たちに心を閉ざしがちです。また現在の偽自由主義の支配する社会では、多くの人たちが自己中心の思いに走り、小さな人々を軽蔑し、至る所で貧困、飢えの苦しみに逃避を求める人たちは増加の一途を辿っています。もし、わたしたちキリスト者が日々本当に福音の教えを生きるなら、世の中は、必ず今とは異なった生活の場になるでしょう。

イエスの弟子でない人がイエスのお名前を使って悪霊を追い出していたので、使徒ヨハネはそれを止めさせようとしてしました。これは昔の選民たち特有の古い閉ざされた心の表れです。イエスは言われました。「わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである」と。イエスにとって大事なことは、その人が仲間であるか否かではなく、仲間の者たちが行おうべきと教えられていることを行おうか否かということだったのです。

「キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。」このイエスのお言葉に対して二つの見解があります。ご自分のいのちを捧げるために、イエルサレムに向かっていらっしゃるイエスに一杯の水を差し上げるならこれは偉大な愛の行為です！しかし同時にイエスはわたしたちの日常生活の小さな捧げもの、自分からの離脱、寛大な奉仕、心身の辛い痛みなどの一つひとつもお忘れになりません；一杯の水は自分よりも周りの人を大切にしている心の在り方です。「キリストの弟子だという理由で、」：ここでイエスは、ご自身がイエスのものでありたいと望んでいるわたしたちと本質的に同じものであることを表明しておられます。これはイエスにとっても、わたしたちがかけがえのない大切な存在であることの表明です。ではわたしたちも、「わたしにとって、イエスはどのようなお方なのか？」 また「イエスにとって、わたしはどのような者なのか？」と、静かに自分にたずねてみましょう。きっと勇気と希望、喜びに満ちた応えをいただくでしょう。(Sr. Paulina)



このような存在を何と呼ぶべきでしょうか。

アイドル、マスコット、小さな王子様、希望の星、教会のこども、神さまのこども・・・どれもみなあてはまるのですが、しかしこれらで表せるものではありません。

上野毛教会主日早朝ミサの最年少の常連メンバーです。昔々からの古い古いお仲間のひ孫さんで、もうすぐ3歳になるAちゃんです。聖堂の玄関先で「ひ孫ちゃん！初めまして「こんにちは」と初対面の挨拶を交わしたときのAちゃんは新生児でした。愛らしい顔立ちを見せてママの手の中に眠っていました。ちっちゃなAちゃんは毎週毎週ママに抱っこされて眠ったままミサに与っていました。

今、あらためて気づくとほんとうにびっくりしますが、Aちゃんは朝7時のミサの中ですくすくと成長しているのです。周囲の私たちはその成長ぶりを日曜日ごとに目の当たりにしていることになります。朝早いミサなので、参集する人数も少なく殆ど顔なじみといってよく、座席も自ずと定位置となるのですが、Aちゃんはいつも前から3列目にママと叔母ちゃまとおばあちゃまと、それからひいおばあちゃまと一緒です。そしてAちゃんは何といつてもとにかく皆勤なのです。Aちゃんの姿が見えない主日はありません。

因みに私はAちゃんの二つ後方あたりがいつもの席ですが、実はここからAちゃんの一挙一動は丸見えというわけです。

ママに抱っこされていたAちゃんは、いつの間にかひとりでお座り出来て、いつの間にか立ち上がり出来て・・・やっと背丈が届く祈祷台にミニカーを走らせ、小形の絵本を眺め、聖歌集をひらき、「神に感謝」と唱和し・・・おばあちゃまのヴェールを取り上げて自分がかぶってみて、具合悪く私と目が合うと、はっとしてそっぽを向いてしまったり・・・ひいおばあちゃまは云われます「とてもシャイなのよ」

特筆すべきことがあります。これはほんとうにミラクルです。

1歳から2歳へ間もなく3歳になろうという元気いっぱいの男の子が、どうしたらミサ聖祭の1時間をあのように過ごすことができるのでしょうか。飽きてしまってむずかかったり、騒いだりがないのです。しっかりと会衆のひとりとしてミサの中にいるのです。それは単におとなしいとかお利口さんといったことではないでしょう。Aちゃんにはきっとミサ聖祭のすべてが全身に染みとおっていて、いささかの違和もなく一体となっているのでしょう。

オルガンの音、グレゴリアンの調べ、司祭の祭服、所作、聖変化のベル、福音のことば・・・主の受難と復活のすべてをAちゃんは存在全体で受けとってきているのでしょう。ひいおばあちゃまも云われます。「ほんとうに不思議何なのでしょうね」

そしてAちゃんのハイライトは何といっても奉納祈願でしょう。

実はAちゃんにも典礼奉仕のお当番が、大人と同じように回ってくるのです。金の十字架をあしらった深紅のカバーに覆われた奉納の籠を、聖堂の最後方から祭壇の神父さまのところへと奉げ行く運び手のご奉仕です。

自分の体とほぼ同じ大きさの籠をしっかりと胸に抱えて、よちよちならぬ堂々とした足どりで、数人の大人たちの先頭を切って中央通路を進みます。

或るときは、籠の中の硬貨がシャラシャラと音をたてるのが面白くて、大きくゆずってお得意の笑顔で歩き、後ろの大人を慌てさせました。慌てた大人たちも居並ぶ皆もそれとは知らずに和やかな笑みを満面にたたえます。

祭壇に待ち受ける神父さまのこの上ない柔和な慈悲深いまなざし、ステンドグラスから差し込む朝の清い光とあいまって、主日の恵みは世界中に輝き満ちみてるのです。

Aちゃんの存在そのありようは、私たち一人ひとりが授かっている信徒使徒職の恵みを思い起こさせます。それは、今日、この時、今、ここに、心開いてあること、ひとつのことに成りきることに他なりません。

格調高い美しい文章で謳い上げる第二バチカン公会議「教会憲章」の「信徒について」(31)(33)(38)からの抜粋です。

「自分の務めを果たしながら、福音の精神に導かれて、世の聖化のためにあたかもパン種のように内部から働きかけ、信仰、希望、愛の輝きをもって特に自分の生活のあかしを通してキリストを他の人々に現すように召されている。」 「信徒によらなければ教会が地の塩となり得ない場所と環境において、教会を存続させ活動的なものとするのが、特に信徒に与えられた使命である」 「肉体の中にある靈魂のような役目を果たさなければならないのである」

Aちゃんの遥かな前途がどうか幸多くありますように

# いのちの言葉 9月

## 隣人を自分のように愛しなさい。

(マルコ12・31)

これは、当時の聖書学者が、掟の中で最も重要なものは何か、と質問したのに対してイエスがお答えになったことです。イエスは、単に教えの中心が愛にあることを思い出させているだけでなく、「神への愛」と「隣人への愛」の両方を合わせて唯一の掟としてお示しになり、こうおっしゃいました。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない」と。

隣人を自分のように愛しなさい。

神は、一人ひとりを心にかけてくださっているのです。私たちの神に対する愛を具体的に表現する何よりの方法は、神の愛ですべての人を愛することです。ちょうど親が、子供たちが仲良く助け合い、一致している姿を見て喜ぶように、私たちの父、母のような存在である神も、隣人を自分のように愛する私たちの姿を見て喜ばれます。すでに預言者たちも、時代を越え、神が望まれるのは犠牲やいけにえではなく、愛であることをイスラエルの民に説明してきました。イエスご自身、その教えを念頭に置き、『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい(マタイ9・13)とおっしゃっています。事実、目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。(一ヨハネの手紙4・20参照)。

これは、教会で神を崇め、賛美し、愛したなら、今度は外に出て、自分が神との交わりや祈りの内に得たことを、人々の間で実践するように、というキリスト者への招きです。

隣人を自分のように愛しなさい。

では、この主の教えをどのように生きたらよいでしょうか。

まず、ここには切り離すことのできない神の愛の二つの側面が含まれていること思い出しましょう。第一に、私たちは、祈りの時や神との語らいの時を持ち、その中で愛とは何か、どのように愛すればよいのかを悟る必要があるということです。愛は、愛そのものでおられる神から習うものだからです。神と共にいる時間を隣人のために裂いてはなりません。その時間は、隣人をいっそう寛大に、適切に愛するための準備になるからです。一方、人々に愛を注いだあと神のみもとに戻って来る



と、私たちの祈りは、いっそう本物の祈りになります。人々との出会いを通してより豊かにされるからです。

隣人を「自分のように」愛するためには、私たちが自分のことをよく知っているように、相手についてもよく知る必要があります。また、自分の思いに従って愛するのではなく、隣人が愛されたと感じられるように愛さなければなりません。出身の異なる人々が共生し、多文化的な様相がいっそう深まった今日の社会では、いっそう大きなチャレンジだといえるでしょう。

また、同じ文化を持つ人々の間でも、家族や職場、地域において、さまざまな違いが存在します。そんな中で私たち自身、誰かに話を聞いてもらいたい、試験の準備を助けてほしい、職探しに協力してもらいたい、家の整頓を手伝ってほしい、などと感じているかもしれません。しかし、他にも同じように感じている人がいるかもしれません。私たちは注意を払い、人の話に耳を傾け、相手の立場になって、そうした要求を察知しなければなりません。

また、どのような愛を抱くかも大切です。聖パウロが「愛の賛歌」の中でその特徴を挙げています。愛は忍耐強く、愛は情け深い。ねたまず、高ぶらず、相手の善を願い、自分の利益を求めない。礼を失せず、いらだたず、恨みを抱かず、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてに耐える（一コリント13・4、7参照）と。

隣人を自分のように愛しなさい。

人間生活の規範をなすこのみ言葉は、ほぼ全ての宗教の中に見られる「黄金律」の土台となっていることも心に留めましょう。「隣人を愛し、互いに助け合う」という、この共通の招きを、私たちはヒンズー教をはじめ、イスラム教、仏教、伝統宗教、キリスト教、善意のうちに生きる人々みなと一緒に生きる努力ができるでしょう。

相手を大切にし、人間を尊重する心を育み、少数派の人を擁護し、より弱い立場の人に心を留め、自分の関心よりも相手の関心に重きを置く新しいメンタリティーを形成するため、みなで一緒に働いていくことができます。

もし、誰もが真に「隣人を自分のように愛する」ということを意識するならば、愛の文明が現実のものとなっていく日も遠くないことでしょう。

ファビオ・チャルディ神父

\*2015年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ いのちの言葉の集い

関東 9月13日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室

(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 9月13日(日) 14:00~ 瀬戸市サポートセンター「ゆうや」

近畿 9月27日(日) 13:30~ 大阪 カトリック香里教会

長崎 9月13日(日) 10時~ カトリック深堀教会

オープン フォコラーレ 一緒に午後のひとときを過ごしましょう

9月12日(土) 12:00~17:00 (昼食持参)

高井戸フォコラーレ 杉並区高井戸西1-11-4

連絡先: フォコラーレ 03-3707-4018/03-5370-6424 E-mail: [tokyofocfem@ybb.ne.jp](mailto:tokyofocfem@ybb.ne.jp)

ホームページ: フォコラーレで検索 <http://focolare.world.coocan.jp/>

# 糸巻き棒からペンへ（1）

—現代人のためのイエスの聖テレジアの教え—

エドゥアルド・サンス・デ・ミゲル OCD



## 1. 導入

この本は、跣足カルメル会の霊的母であるイエスの聖テレジアという人物とそのメッセージに近づき、親しむためのものです。今日、彼女の家族は全世界に広がり、観想的なカルメル会修道女の数は約 12,000 名、カルメル会修道士は約 4,000 名、会に霊的に属する活動修道会や在俗会は約 60、カルメル在世会やさまざまな信徒の会の会員数は 40,000 人以上です。

聖テレジアは、1515 年にアビラに生まれ、1582 年にアルバ・デ・トルメスで亡くなりました。享年 67 歳、晩年の 15 年間に 17 の女子修道院と、いくつかの男子修道院を創立しました。彼女の死後、新しいカルメルが存在は、またたく間にスペイン、イタリア、ポルトガル、フランス、オランダ、イギリス国内に、さらにはヨーロッパの外へと広がりました。

テレジアは、今日ではスペイン語やキリスト教霊性の古典となっているいくつかの本、中でも『自叙伝』、『完徳の道』、『内的な城（『住居』とも呼ばれる）』、さらに沢山の詩や手紙や小品を書き著しました。これらのものは、最初から書写され、同時代の人々に読まれ、死後、またたく間に出版されました。『完徳の道』は 1583 年にエボラで、1585 年にサラマンカで、1587 年にはバレンシアで刊行され、全著作の初版は、1588 年、ルイス・デ・レオン修士の長い推薦の手紙と共に刊行されました。著作はすぐにヨーロッパの他の言語やラテン語に翻訳されたため、その影響はスペインの国境の外へと拡大しました。

1590 年、フランシスコ・デ・リベラの手になる聖女の最初の伝記が出版されました。同じ年に、列聖のための裁判が始まり、そのために 300 人以上の人が出廷しました。1606 年、ディエゴ・デ・イエペスは、新しい伝記を出版しました。他の同時代人も、母テレジアの思い出を文書にしました。それゆえ今日では、彼女の生涯を知るために、あるいは彼女と交わった人々や著作を読んだ人々の中に彼女が残した深い影響を知るために、直接の資料を私たちは、非常に沢山手にしているのです。

九里 彰訳

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介いたします。



ORDEN  
CARMELITAS DESCALZOS  
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2015年5月28日

## 跣足カルメル修道会 (OCD) ザベリオ・カンニストラ総長へのインタビュー

〈質問〉去る5月7日にOCD総会は、貴方を総長の役務に再選しました。選挙のその時に、何を感じられましたか。

〈総長〉聖パウロは、肉の思いは霊の思いに反すると言っています。私は、それを幾分か自分の内にあると認めます。疲労から逃れたいという望み、これから6年間の務めを果たすだけの力がないのではないかとこの恐れ、生活を自分の手の中に取り戻したいという誘惑があることを、私は隠すつもりはありません。

しかし、結局、次の基本的な論理が打ち勝ちました。私が6年前、兄弟達の選挙の中に神のみ旨を見、「はい」と言ったのであれば、今それと異なる行動を取ることはできないということです。それゆえ、私はこの新しい呼びかけを平和のうちに受け入れることにしました。

〈質問〉修道会の6年間にわたる統治の後、この度の挑戦には6年前とは異なった仕方です。立ち向かわれると思いますが、これまで得られた経験はどのような助けとなるのでしょうか。

〈総長〉実際、私を待ちうけている仕事を今までとは違った見方でとらえています。問題は、既に始められている仕事を、起こり得る困難や、やる気を起こさせる根拠を、さらによく理解しながら継続することです。

〈質問〉明らかに、カルメル会の各管区の特徴を考慮せずに、会全体のグローバルな評価を行なうことはできません。よろしければ、一般的な言葉で会の現状についてお伺いいたします。

〈総長〉会は活発に存続しており、多分私たちには十分に意識されていない豊かさと肥沃さを保持しています。コハネの福音書のイエスのみ言葉でお答えするならば、会は豊かに実ってはいますが、まさにそれゆえに、さらによく実りをもたらすために剪定され、育てられていかねばなりません。

〈質問〉古いヨーロッパでは、召命の危機が挑戦となっています。跣足カルメル修道会として、この挑戦とどのように向き合われますか。

〈総長〉当然この危機に対してはさまざまな反応があります。私の見解では、もっとも健全な反応は、私たちに託された為すべき事を、聖テレジアが述べたように続けることです。すなわち、私たちに託されたわずかなことをすることです。それは、実際には決して小さなことではありません。今日の世界の状況の中で、兄弟的な祈りの共同体をより深く生きようとするを意味しているからです。私たちがこの仕事を自らの内に遂行してい

くかぎり、必ずや西欧の修道生活が直面している危機と向き合い、それを克服していくことができると思います。

〈質問〉確かにカルメルの聖人たちのメッセージは、その点で私たちの助けとなります。

〈総長〉そうです。私たちの“現実”、つまり世界の私たちとの関係は、まさに私たちのカリスマの特殊性に託されています。聖テレジアの著作の再読は、この500年前に生きた一人の女性の経験の中に、私たちの多くの問題の答えを発見させてくれたと思います。それらは、後からの知恵としての答えではなく、オリジナルであり、私たちの中で、また個人的にも共同体的にも私たちの生き方の中で、深く掘り下げるよう促しています。

〈質問〉逆に言えば、会はどこかで成長していくのですね。

〈総長〉そうです。会の成長はアフリカとアジアのある地域では特に活発です。そして他の地域では、とにかく良い状態にあり、特に安定性がみられます。

〈質問〉確かに青年層とのつながりを持つことは挑戦です。青年たちの注目を惹きつける多くのメッセージであふれている今の社会で、どのようにそれは実行できますか？

〈総長〉まず第一になすべきことは、若者の話を注意深く聞くことです。彼らより年を重ねた私たちに話しかけてくる彼らの態度が引き起こす最初の表面的な印象を越えて、その声に深く耳を傾けることです。私は、修道者にこのような共感する能力があるとき、若者は修道者に注目し、より大きな関心と率直さで応えてくれると確信します。

〈質問〉話題を変えましょう。跣足カルメル修道会の姉妹たちとの関係について、総会中に数日間、焦点が当てられました。これまでの6年間、この問題に関していくつかの文書を書かれましたが、これからはどのような歩みをお考えですか。

〈総長〉カルメル会の姉妹たちが総会中に二日間参加したことは、単に儀礼上のことではありません。それは、焦点と相違が明らみに出た真の対話に与えられたまことの出会いでした。終わりにシスターたちは特に、私の考えでは、観想修道者の生活にとって最も大切な挑戦の一つである生涯養成に対する共同作業について、この交わりを継続するよう、私たちを招きました。

〈質問〉カルメル会の姉妹たちの場合と同様に、信徒も総会に参加しました。これから6年間の彼らとのもう一つの挑戦についてお伺いします。

〈総長〉私たちは、総会の一日をカルメル在世会の異なる国々から参加した会員たちとともに捧げました。カルメル在世会の現実とはとても一様ではありません。カルメル在世会に属することは、その地域と文化に基づく非常にさまざまな意味合いを持っています。しかし、彼らのすべての内に、カルメル在世会本来の役目を真摯に深めようとする挑戦が存在すると信じます。在世会員はカルメル修道会の修道士や修道女の共同体の生き方とは異なる、カルメルのカリスマの次元の特別な生き方を見出すことが必要です。

〈質問〉先ほど、どのように信徒の若者とつながりを持つかについて話しました。ここでは養成中の人たちについて言及したいと思います。養成段階における重要性についてお伺いします。



〈総長〉カルメル修道会の養成が何か表面的な見せかけのものであることを望まないならば、私たちは、人間的キリスト教的養成に関して多くのことを耐え忍ばねばなりません。この意味で、人間的キリスト的な仕方では人格を養成する、テレジア的カルメルの様式を見出すことが必要です。テレジア的カルメルのカリスマの遺産には、自己認識と主イエスとの関係のレベルにおける人間的靈的成熟の過程を生み出すための、また修道生活にふさわしく自己をゆだねていくための、十分な要素があると、確信しています。

〈質問〉私は、生涯養成を忘れてはいません。またそれに関して行う旅もあります。

〈総長〉私たちは、生涯養成と養成の現代化を区別すべきです。時々、これらの二つのことを混同しています。生涯養成は、自分の召命や靈魂や存在の世話をする“自己管理”と称するものです。その反対は、無気力であり、その語源は自己軽視を意味します。この意味において、生涯養成は、日常生活の個人的体験（祈り、共同体、仕事）から生じる種々の出来事において日々実践される個人の責務です。現代の知識を身につけることは、学び、読み、など自分に情報を与えることを意味する異なった事柄です。今までの6年間私たちは、聖書学的養成や靈的養成コースをステラ・マーリス（ハイファ）で、また養成担当者や共同体指導者や靈的指導者の養成をインドで、このタイプの企画を開始しました。総会は、これらの企画が次の6年間も継続されるよう元得ました。

〈質問〉総会に焦点を当てましょう。閉会の文書『歩み出す時です』で、会憲の再読をするようにと招かれました。一言で言うと、この再読の主な目的は何ですか。

〈総長〉私たちは、過去6年間の聖テレジアの著作再読の旅に継続性を持たせるために、会憲の再読を始めることを決定しました。私たちは、ページをめくりたくありません。しかし、聖テレジアの息子・娘として「どのような人物であるべきか」を自らに問い続けたいと思います。この前提から会憲の再読は、会憲に述べられている模範と今日の私たちの生活の比較をその目的とします。一方では、それは会憲に照らされて私たちの生活を吟味することであり、他方では、過去30年あるいは40年間における修道者や共同体の経験の観点から会憲を見直すことです。今まで大きな挑戦がなされてきました、今やそれらの変化が起こす問題の多くに答える時が来たと思います。

〈質問〉総会では、OCDの宣教についても多く語られました。聖テレジアの宣教精神は生きています。今後6年間に、宣教への援助は、どのように総長館からなされますか？

〈総長〉私たちは、いくつかのレベルで働かねばなりません。第一に、私たち皆が宣教師となり、福音宣教をしていくというこの責務に関与していることを感じるために、テレジア的カルメル会の部分を成す宣教が何を意味するかについて、より明確に定めなければなりません。教皇フランシスコは、閉じこもりや自己陶酔の危険を避けて外に出るように全教会に強く勧告されています。また新しい宣教のための経済的支援という具体的な問題もあります。私は、総会が総長館によって管理される宣教授助基金を設けることを選び、「財産の交わり」を選択したことを大変喜んでいました。私は、受け取っている多くの援助依頼に、少なくとも部分的に応えられるよう望んでいます。

〈質問〉もう一つの重要な課題はコミュニケーションです。会の現状報告において“コミュニケーション”という言葉が何度も使われました。この分野において私たちに欠けているものは何であり、そして私たちはそれを改善するためにどのように共に取り組むことができるのでしょうか。

〈総長〉コミュニケーションは、人間生活の本質的な特質であり、共同体の生活においてはさらにそうです。時として、私たちはコミュニティの概念を少し精神的なものにしています。私たちは、交わりや一致について話し、それによってコミュニケーションの具体的な経験にお

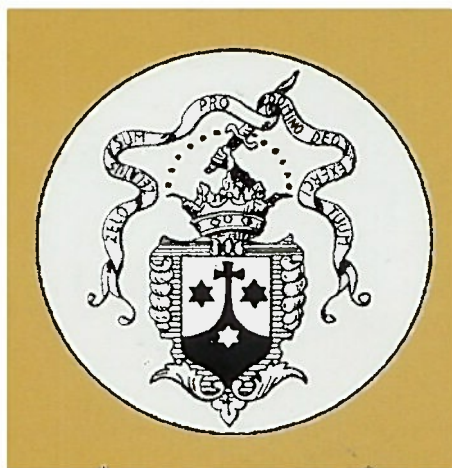
ける一致の交わりで与えられた恵みを体現する約束を、自分たちから除去しています。コミュニケーションは、何よりも私たちの周りの兄弟たちと共に生かされることです。今日私たちは、はるか遠くの人々と、現実的ではない仕方、非常に頻繁に交わるリスクを冒し、身近な人々との交わりは非常に少なくなっています。コミュニケーションは、聴く能力、自己表現の能力、他者を信頼しその関係を保つことなど、多くのことを意味します。これらは皆、聖テレジアが望んだように、私たちがお互いによく知り合い、友としての兄弟であることを真に望むなら、コミュニケーションの中心に置くべき価値です。

〈質問〉このインタビューを終わるにあたり、テレジア的カルメルファミリーのすべての人々にメッセージをお願いします。

〈総長〉総会文書のタイトルとして選んだ『歩み出す時です』という言葉以上に良いメッセージはないと思います。私たちは、じっと留まっていることはできません。恐れや誤った慎重論によって自分自身をしばってしまうことはできません。私たちは、信頼と希望を、自らの内にはなく、私たちと共に歩むと約束された主の内に置いて教会と今日の世界を巡る旅を始めなければなりません。歩み出す時です。「主よ、一緒に行きましょう」と。



# カルメル会の企画案内



## 上野毛霊性センター ～2016年3月

黙想企画 \*\* 上野毛聖テレジア修道院(黙想) \*\*

### 1. 日帰り黙想会 13時30分(※10時)～16時

[聖人たちを支えた神のことば] 福田正範神父

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

2015年

9/3 (木)、9/18 (金)、10/30 (金)、

11/5 (木)、11/20 (金)、12/3 (木)、12/18 (金)

2016年

1/15 (金)、1/28 (木)、2/12 (金)、2/25 (木)、3/11 (金)

\*申し込みは、3か月前より受付致します。

※企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。  
午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

### 2. 奉献生活者のための黙想会

10月13日(火) 18時～10月22日(木) 朝 福田正範神父

12月27日(日) 18時～2016年1月5日(火) 朝 福田正範神父

### 3. 青年黙想会(男女) 福田正範神父・カルメル会士

テーマ「キリスト者の奉獻」

11月13日(金) 16時～15日(日) 16時

### 4. 召命黙想会(男女)

~~9月25日(金) 16時～27日(日) 16時~~ (中止になりました)

5. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

11月 6日(金)20時～ 8日(日)16時「いのりの道」

6. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2015年12月24日(木)～25日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

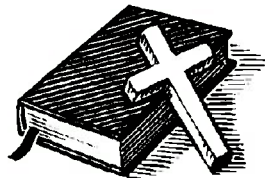
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2016年 3月24日(木)夕食～27日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

**New!** 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。  
間違いを避けるためなるべく、FAX・はがき・Eメールで連絡して頂ければ幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

# \*\*\*\*\*日帰り黙想会\*\*\*\*\*

## ☆☆☆聖人たちをささえた神のことは☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニムは言いました。  
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

**場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)**

**指導：福田正範神父**

\* 企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時：	9月 3日(木)	午後1時30分～午後4時
	9月18日(金)	〃
	10月30日(金)	〃
	11月 5日(木)	〃



お問合せ・お申込み+

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158 0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

## 特別黙想会 《わたしは神をみたい》

2015年11月6日（金）20時～8日（日）15時

わたしが来たのは

羊が 命を受けるため

しかも豊かに受けるためである

ヨハネ10・10



わたしたちを探す神のまなざしに出会い、

わたしたちを探し続けられる神を迎え入れるために

しばらく神のみ前に 静かなひとときを過ごしてみませんか？

- 指 導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 新約聖書、『弱さと神の慈しみ』伊従訳編 サンパウロ  
（黙想の家で購入できます、）
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）  
158-0091 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
Tel. 03-5706-7355 Eメール：[mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)
- 申し込み方法： FAX 03-3704・1764 または、ハガキにて

## 2015年～2016年 黙 想 会 案 内

(宇治カルメル会)

### 【一般のための黙想】 ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2015年	9月5日(土)～6日(日)	イエスと友情を生きる「聖テレジアに学びながら」	中川博道 神父
	11月28日(土)～29日(日)	日常生活の中でイエスと共に生きる	中川博道 神父
2016年	1月9日(土)～10日(日)	私が洗礼を受けたこと	中川博道 神父

### 【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)

2015年	7月11日(土)	中川博道 神父	11月14日(土)	中川博道 神父
			12月12日(土)	渡辺幹夫 神父
2016年	1月9日(土)	中川博道 神父	2月13日(土)	渡辺幹夫 神父
	3月12日(土)	渡辺幹夫 神父		

・ 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

2015年	9月16日(水)	キリスト教の霊性	松田浩一 神父
	10月14日(水)	聖テレジアの過ぎ越し	渡辺幹夫 神父
	11月18日(水)	観想と活動	松田浩一 神父
	12月16日(水)	人となられた神にともなわれて	中川博道 神父
2016年	1月20日(水)	主の慈しみは、新たになる	渡辺幹夫 神父
	2月24日(水)	生きていることの見直し	中川博道 神父
	3月16日(水)	キリストの過ぎ越	松田浩一 神父

・ 四旬節の黙想 (午後5時～午後4時)

2016年	3月5日(土)～6日(日)	中川博道 神父
-------	---------------	---------

・ 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

2015年	12月13日(土)～12月14日(日)	松田浩一 神父
-------	---------------------	---------

・ 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

2015年	9月30日(水)～10月1日(木)	伊従信子 師
-------	-------------------	--------

【カルメル青年の集い】 (午後5時～午後4時)

2015年	11月22日(日)～11月23日(月)	松田浩一 神父
-------	---------------------	---------



【一般のためのカルメルの霊性入門】

(午後5時～午前4時)

2015年

10月14(火)～10月15日(水)

イエスのテレサ生誕500年閉会式

松田浩一 神父

【奉献生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

2015年 7月31日(金)～8月9日(日)

8月21日(金)～8月30日(日)

12月27日(日)～1月5日(火)

中川博道 神父

松田浩一 神父

松田浩一 神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン 午後4時以降可、チェックアウト 午前11:30

12月24日(木)～12月25日(金)

[講話なし、各食事つき]



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで

お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話はなるべく、午前9時～午後5時の

間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、

お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# 『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

## — 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様へ、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

### 【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6名

【開催日】 2015年 1月30日(金)～31日(土)

2月13日(金)～14日(土)

3月 6日(金)～ 7日(土)

5月 1日(金)～ 2日(土)

5月13日(金)～14日(土)

~~6月19日(金)～20日(土)~~

6月26日(金)～27日(土)変更

7月24日(金)～25日(土)

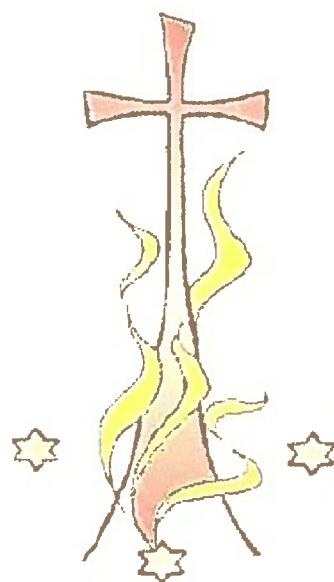
9月 4日(金)～ 5日(土)

10月 2日(金)～ 3日(土)

11月 6日(金)～ 7日(土)

12月 4日(金)～ 5日(土)

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

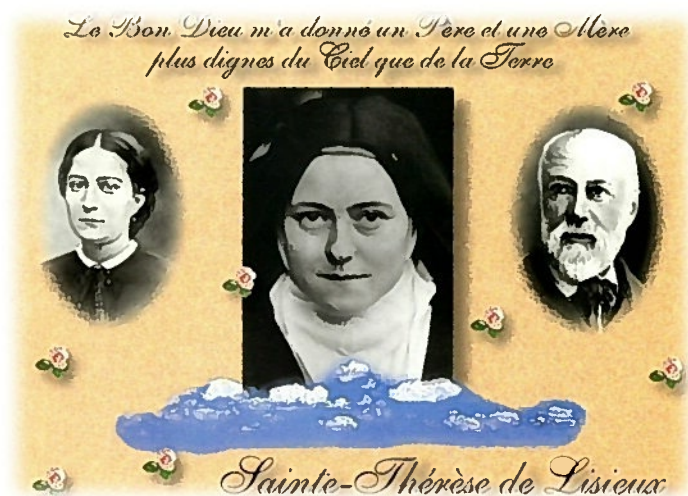
E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

## 聖テレーズの黙想会

2015年9月30日(水曜日)5時—10月1日(木曜日)4時

テレーズの命日(9月30日)、祝日(10月1日)に  
テレーズを育てた両親の列聖を祝って神に感謝!

2015年を家庭の年と宣言された教皇フランシスコはこの秋にテレーズの両親  
マルタン夫妻を列聖すると発表されました。教会でははじめて、夫婦で聖人に  
あげられることになります。



うまずたゆまず 祈りましょう。

信頼は 奇跡をもたらします。

~~~~~

指導: 伊従 信子

場所: カルメル会 聖テレジア宇治修道院(黙想)

611-0022 宇治市木幡御歳山39-1

持参するもの: 新約聖書、『弱さと神の慈しみ』サン・パウロ社

『テレーズの約束』サン・パウロ社 (お持ちの方は)

申し込み先: fax 0774-32-7457, 電話 0774-32-7016

e-mail [teresiauji@mountain.ocn.nc.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.nc.jp)

# 《 名古屋一日静修 》

カルメルの霊性を生きる

—アビラの聖テレジア—



1. 日時： 9月19日（土）  
「生きることと祈ること」  
11月23日（月）  
「念祷の祈りとは？」  
12月23日（水）  
「自分を知ること」  
\*午前10時～午後4時\*  
場所：カトリック日比野教会 信徒会館  
(地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分)
2. 指導司祭：九里 彰 神父
3. 参加費：1000円
4. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
5. プログラム  
10:00 導入の祈り（聖堂）  
10:20 第一講話（信徒会館）  
11:30 念祷 ① 赦しの秘跡または面接  
12:00 昼食（信徒会館）  
12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接  
13:00 第二講話  
14:00 念祷 ③  
14:30 ミサ（聖堂）  
15:30 茶話会（信徒会館）  
16:00 終了の祈り
6. 申し込み：下記いずれかの方法でお申込み下さい。  
FAX/0568-62-5167  
mail/seisyuu\_2015@yahoo.co.jp  
ハガキ/〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1-26  
「名古屋一日静修」係り

## 2015年度 OCDS（跣足カルメル在世会）年次黙想会

跣足カルメル在世会名古屋共同体企画

### 「聖テレジアとともに、カルメルの靈性に生きる」

～涼やかな森の中で、跣足カルメル在世会員と共に祈り、神を賛美する3日間～



- 1 日時 2015年10月10日（土）～10月12日（月・祝）
- 2 場所 宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想の家）  
〒611-0002 宇治市木幡御蔵山（うじしこばたおぐらやま）39-12
- 3 定員 若干名（10名前後の予定。定員になり次第締め切らせていただきます。）
- 4 指導 九里彰神父様（跣足カルメル会総長代理）
- 5 参加費 6000円×2～12000円（1泊の場合は6000円）
- 6 持ち物 ノート・筆記具・洗面具・着替え・パジャマ・薬など、個人的に必要なもの。

◎参加ご希望の方は、以下のメールかFAXでお申し込みください。

（ご住所・お名前・電話番号・メールアドレス・所属教会・参加される日をお知らせください。）

メール：ocds-nagoya2015@yahoo.co.jp FAX：058-372-6305

カルメル年次黙想会担当者 まで

## 霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話

15:30～ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第二土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読 短い講話

14:30～ベネディクション 聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう。

カルメル霊性センター



〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788



## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ  
にお問い合わせ下さい。



### 聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

# 祈りと記念の手帖



わたしと神、わたしと大切な人々との出会いを記し、日々祈り、記念するための永年手帖

—推薦の言葉— Br.田中直 (聖パウロ修道会)

祈りによってさまざまな垣根が取り払われ、天と地が結びつき、人と人とが支え合うことができます。この手帖によって祈りの輪が広がっていくことを願っています。



\* Br.田中は、日々の出会いを記念した祈りを実践していらっしゃいます。

## [収録内容]

- 丸里彰「記念し、祈る」
- 曜日のないダイアリー：誕生日、結婚記念日、受洗日、命日などを自由に記入できます
- 年ごとの記録：10周年、金祝などの覚えに役立ちます
- 絵画（カラー）と解説：祈りに向かう心、空間をつくるために
- 祈りと祈りのヒント（カルメル修道会監修）：主の祈り、聖人たちの祈り、年始・年末の祈り（高橋重幸・晴佐久昌英）や「祈りの小道」、聖句、詩などを豊富に収録

オリエンズ宗教研究所 編  
ISBN 978-4-87232-085-5 C0016  
A5判・200頁・本体価格1600円+税



全国のキリスト教書店、Amazon、オリエンズ宗教研究所HPをご利用ください。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

#### 2015年予定

- K4 09/19 (土) -09/25 (金) 東京・小金井・聖霊会  
N3 10/27 (火) -11/02 (月) 滋賀唐崎・ノートルダム  
T2 11/17 (火) -11/23 (月) 兵庫西宮・トラピスチヌ  
K5 12/12 (土) -12/18 (金) 東京・小金井・聖霊会

#### 2016年予定

- N1 02/26 (金) -03/03 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム  
N2 05/07 (土) -05/13 (金) 滋賀唐崎・ノートルダム  
K1 06/13 (月) -06/19 (日) 東京・小金井・聖霊会  
K2 10/01 (土) -10/07 (金) 東京・小金井・聖霊会  
N3 10/20 (木) -10/26 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム  
K3 12/05 (月) -12/11 (日) 東京・小金井・聖霊会

## 真命山 2015年 — 祈りの集いのご案内

祈りの集い（午前10時～午後3時）

年間のテーマ

### 「イエス、マリア、ヨセフが祈られた詩編」



- 1月 8日 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に  
適う人にあれ。」（ルカ2.14）詩篇 1. 34. 117. 19. 150
- 2月 12日 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を  
信じなさい（マルコ1.15）詩編 51. 21
- 3月 12日 過越祭のハレルの詩編：113.117.136
- 4月 9日 復活祭の詩編：2.110.118
- 5月 14日 詩編 45.89（ルカ2.46-55）
- 6月 11日 詩編 145.146.148
- 7月 9日 詩編 126.130
- 8月 休み
- 9月 10日 詩編 23
- 10月 8日 詩編 42
- 11月 12日 詩編 137.147.150
- 12月 10日 詩編 来られる主を迎えて：72.96（ルカ1.68）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。  
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心のテーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下(予定)の上曜日、

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、  
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラムの詳細は別途公表。

夏学期: 9/5, 9/12, 9/19

冬学期: 10/10, 10/17, 10/24, 10/31, 11/7,

11/14, 11/21, 12/5, 12/19,

2016年 1/9, 1/16, 1/23, 1/30, 2/6

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、12月30日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、4月28日、8月11日、12月22日は休み。8月25日は、クルトゥルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂

どなたでも。但し祝日、8月4日は休み。

・「水曜日ミサ後の黙想」18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。  
どなたでも。但し祝日、8月全体、12月30日は休み。

・「通う霊操」8月22日(土)～8月30日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」

11月28日(土)10時～29日(日)14時(上石神井)。

1泊2日。7,000円程度。事前申込み要。

[関西]9月26日(土)13時30分～27日(日)15時(宝塚市)。

●祈りの集い

・下記の上曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。

9月5日、10月10日、11月7日、12月5日、2016年1月9日、2月13日、3月5日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。但し祝日、4月27、30日、7月30日、8月全体、11月2日、12月24、28、31日、2016年3月24日は休み。

●坐禅接心

10月31日(土)20時20分～11月3日(火)8時30分

秋川神冥窟。1泊2、400円(+暖房費)程度。事前申込み要。

[関西]5月9日(土)13時30分～10日(日)15時、7月30日(木)17時45分～8月5日(水)15時。

●アガベ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。

10月25日(日)、会員未加入の方にもオープン集い。13時30分から。岐部ホール4階、404。

●クリスマス会

12月12日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階、404。  
事前申し込み要。

●クリスマスのミサ

12月23日(水)14時～16時。上智大学内クルトゥルハイム聖堂(80人限定)。

●クリスマスの黙想

12月25日(金)18時55分～20時40分。聖イグナチオ教会マリア中聖堂(予定)。



## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2015年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

イエス(上智大学内クルトゥルハイム2階)

09/04 イエスの復活— 今に生きるイエス

09/11 聖霊— 神の愛に導かれる

09/18 祈りの本質とさまざまな祈り方— 神と関わる

09/25 洗礼と堅信— イエスに結ばれて生きる

10/02 教会の成立と意味— イエスを中心に集う

10/03-04 ●黙想会(東村山)

10/09 人間としてのイエス— 新しい人間像の基礎づけ

10/16 御子としてのイエス— イエスの神との関係

10/23 父と子と聖霊— 神の生命に与る

10/30 信仰の決断— 支えられて生きる

11/06 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧

11/13 自己実現と神の意志— 生き方の規範

11/20 人間の弱さ— 罪とは何か

11/27 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける

11/28-29 ●黙想会(上石神井)

12/04 愛の心— キリスト教の本質

12/11 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う

12/12 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404、要申し込み)

12/18 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む

12/23 ◆クリスマス・ミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)

12/25 ●クリスマス・黙想(18時55分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)

01/08 霊の動き— 福音による生き方

01/15 秘跡と教会生活— 毎日を支える信仰

01/22 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方

01/29 結婚と独身— 愛の道

キリスト教理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

[根本的態度]

09/01 唯一の掟— 愛による完成

09/15 基本的な徳— 判断力・勇氣・節制

09/29 共同存在— 共通善・正義・奉仕

10/3 4 ●黙想会(東村山)

10/06 個人の道— 自己の課題と聖霊の導き

10/20 対人関係と友愛— 恵みである他者

11/17 身体と生命— 性と倫理

11/28-29 ●黙想会(上石神井)

[日常生活]

12/01 家庭と独身生活— 与えられた招きの発見

12/12 ■クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4F、要申し込み)

12/15 仕事と祝い— 能力の活性化と人生の実り

12/23 ■クリスマス・ミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2F、80人限定)

12/25 ●クリスマス・黙想(18時55分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)

12/29 ○休み

01/05 困難と苦しみ— 謙遜な自己奉獻と神への信頼

01/19 教会生活とミサ— 「キリストの体」の神秘

02/02 秘跡の恵み— たえざる刷新と神のいのちの深まり

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL [03・3263・4584](tel:03-3263-4584)

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056



# いのちの泉へ (ノートルダム・ド・ヴィ)

## いのちの泉へ

### すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、  
キリスト者としての霊性を養うための  
講話と沈黙の祈りで構成された集いです



#### 東京

9月23日 特別祈りの集い(別紙参照)  
10月17日(土)「テレーズの両親」  
11月21日(土)「マリアの奉獻」  
午後2時 ~ 午後5時30分位まで  
講話・祈り・質問・分かち合い  
講話 伊従信子  
\*\*\*\*\*  
参加費 200円

お申し込み・問い合わせ: ノートルダム・ド・ヴィ  
〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35  
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254  
e mail [notredamedevie.japan@gmail.com](mailto:notredamedevie.japan@gmail.com)

\*\*\*\*\*

#### 京都

9月5日(土)、10月3日 13時半~15時 京都NDV 担当: 伊従信子  
『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』 聖母の騎士聖母文庫  
6章 神の愛を信じて

9月8日(火)、10月6日 13時半~15時半 河原町カトリック会館3階  
\* 『いのりの道をゆく』 担当: 伊従信子  
\* 祈り: 「都の聖母」聖堂にて 15~15時半

9月12日(土)、10月31(土) 13時半~15時 京都NDV  
主日の福音の分かち合い 担当 中山真里

9月26日(土)、10月24日(土) 14時~15時半 河原町カトリック会館7F  
祈り: 「都の聖母」聖堂に依 15時半~16時 担当 中山真里

~~~~~

京都NDV お問い合わせ ノートルダム・ド・ヴィ  
〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4  
TEL・FAX(075-462-3525)

email : [ndvmari@hotmail.com](mailto:ndvmari@hotmail.com)

## ノートルダム・ド・ヴィ特別プログラム

### 『今、喜びの道を歩きだそう!』

～アピラのテレサと

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師～



わたしたち一人ひとは、毎日の生活のなかで信仰をどのように生きればよいのかという問いを、大なり小なりかかえて過ごしています。

今年、アピラのテレサ生誕 500 年の年にあたり、聖女からのメッセージに耳を傾けながら、この問いにあらためて向き合いたいと思います。そのために、テレサの精神を現代に伝えた、幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師を手がかりに、この困難な時代をキリスト者として生きるヒントを、ごいっしょに探りましょう。

- 日 時：2015年9月23日(水) 午前10:30～午後4:30頃(受付は10:00から)
- 場 所：ノートルダム・ド・ヴィ(東京・上石神井)
- 参加費：500円(午前のみ・午後のみ参加の方は200円)
- 申し込み：ハガキ、電話、Fax、メールでお申し込ください。

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35 ノートルダム・ド・ヴィ

Tel. 03-3594-2247 Fax:03-3594-2254

E-mail: notredamedevie.japan@gmail.com

#### ■プログラム(予定)

午前10時半頃より

- ・第1講話(午前) 「アピラのテレサからのメッセージ」…片山はるひ
- ・沈黙の祈り、昼食 \*昼食は軽食を用意いたします

午後2時頃より

- ・第2講話(午後) 「<sup>コミュニケーション</sup>〈交わり〉の〈あかし人〉となるために」…伊従 信子
- ・質問の時間 等。

Père Marie-Eugène de l'Enfant-Jésus 1894-1967



## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
サダナⅡ	9/19(土)17:30- 9/23(水)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会- 町田黙想の家(町田市)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5802-3844
入門A	9/27(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
自己を知る  *1泊2日× 2=合計4日	10/3(土)9:30- 10/4(日)17:00  10/11(日)9:30- 10/12(月)17:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院 (小金井市)	同上
サダナⅠ	10/23(金)17:30- 26(月)16:00	Fr植栗	女子御受難会修道院 (宝塚市)	大倉元子 Tel 078-811-2706
入門B	11/8(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5802-3844
サダナⅠ	11/20(金)17:30- 11/23(月)15:00	Fr植栗	浜松(旧)聖ベルナルド 修道院(浜松市)	同上
フォロー アップ	12/6(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554



◆サダナⅠ(入門A. B. C)・・・体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナⅡ・・・Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。

# 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて  
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00  
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

9月10日（木）『靈魂の城』第七の住居・第一章  
11月12日（木）、12月10日（木）

アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。  
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会日本管区長）



## <<特別黙想会>>

日時：12月5日（土）5時受付～6日（日）午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「イエスの聖テレジアとともに祈る」

指導司祭：九里彰神父

申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2015年 4月29日(水)～ 5月7日(木)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月26日(月)～ 11月3日(火)
- ④ 12月27日(日)～ 2016年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間（全曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2015年 2月6日(金)～ 2月8日(日)
- ② 2月27日(金)～ 3月1日(日)
- ③ 3月20日(金)～ 3月22日(日)
- ④ 6月19日(金)～ 6月21日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月27日(金)～ 11月29日(日)

C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）

2015年 5月25日(月)～ 6月2日(火) 澤田豊成 師（パカ会）

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご  
相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）



# 捧げるということ

2015年度 召命黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月16日(土)～17日(日)	網を捨てて従う	山内十束師(ご受難会)
2	9月12日(土)～13日(日)	人里離れたところに行く	山内十束師(ご受難会)
3	11月21日(土)～22日(日)	あなたがたがパンを与えなさい	山内十束師(ご受難会)
4	2月13日(土)～14日(日)	イエスよ、私を忘れないでください	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院  
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 捧げるということ

## 人里離れたところに行く

2015年度 第2回 召命黙想会

日時： 9月12日 (土) 15:00～

13日 (日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2015年9月5日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

**New!** 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

## 『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



### 編集後記

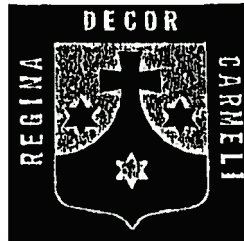
安保法案などで、「このみち～は～いつかたみ～ち～」といった感じになってきているが、根底にあるのは人間の心に巣食う敵味方の意識ではないだろうか。敵の攻撃を恐れ、自己を防衛する。攻撃される前に、敵を攻撃する。この意識がある限り、国と国の間に、あるいは人と人の間に、本当の意味での信頼関係や友情を築いて行くことはできないだろう。一旦事が起これば、自国や自分の利益を優先し、他国や他者を容赦なく切り捨てることになる。

味方とは自国や自分を支持してくれる国や人であり、自国や自分を支持しない国や人はすべて敵となる。自分中心・自国中心のもの見方・生き方であり、状況の変化によって、容易に「今日の友は明日の敵」となり得る。そしてこの世は、まさにその通りである。だからこそ自衛隊、国防軍が必要とされてくるのだろう。

だが、キリストは、その生と死をもって、敵味方の意識を越える神の無限の愛の世界、真の友情の世界を啓示したのである。

敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にきなさい。悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。(ルカ 6・27-28)

(P.九里)



### 製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「10月号」製本日

9月29日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1階  
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171